アーミッシュ(Amish)と子どもの教育

大和田囲碁同好会　成田　滋

ウィスコンシン大学で研究していたとき、キリスト教徒の一派であるアーミッシュ(Amish)と呼ばれる人々が起こした子どもの義務教育に関する裁判のことを知りました。アーミッシュは、ドイツ系移民で、ペンシルベニア・ダッチ(Pennsylvania Dutch)とも呼ばれています。ダッチ(Dutch)は、オランダ語のことではなく、ドイツ語の"Deutsch"に由来し、古くはドイツ人のことを指しました。アーミッシュの家庭での会話はドイツ語です。学校で初めて英語を学び、聖書を読むために標準のドイツ語であるハイ・ジャーマン(High German)を学びます。ウィスコンシン州にもアーミッシュが沢山暮らしています。

アーミッシュには、「オルドヌング」(Ordnung)という戒律のような信仰告白があり、生き方の指針として次の教えを大切にしています。それは洗礼、人類愛、絶対平和、近代文明への非協調、聖書への従順といったことです。謙虚さ、家族、共同体、世俗社会からの独立などを大切にします。こうした教義からアーミッシュが、質素でつつましやかな人々(plain people)と呼ばれる所以です

子どもの教育にも特徴があります。彼らは共同体にある小さな学校で８年間学びます。これはワンルーム・スクール・ハウス(One room school house)と呼ばれています。学ぶのは聖書の読み書き、英語、ドイツ語、算数、歌唱などに限られています。教師は未婚の女性がなります。教員免許は持っていません。学びで大切なことは、両親らから教えられる家事、農作業、家畜の世話などの実体験です。高等教育は受けないという主義です。高等教育はアーミッシュの考え方や生き方を乱す世俗のものであると考えるからです。

アメリカでは、小学校が５年、中学校が３年、高校が４年の 12 年間が義務教育で無償となっています。ただし、アーミッシュは、読み書きや算術などの基本的な技術を学ぶために公立学校の存在には反対していません。ウィスコンシ

ン州に住んでいたジョナス・ヨーダ(Jonas Yoder)ら３名のアーミッシュが州都マディソンの近くにあるニュー・グレラス(New Glarus)高等学校への子どもの就学を拒否してウィスコンシン州教育委員会を相手に起こした著名な裁判例があります。これは「Wisconsin v. Jonas Yoder」裁判と呼ばれます。

裁判の顛末です。保護者は、高等学校における就学義務について「アーミッシュの子ども達を信仰に反する態度・目的や価値といった点で世俗の影響にさらし、アーミッシュの子どもの宗教的発達と、アーミッシュの信仰による共同体での生き方の統合を本質的に阻害する。親および子どもの双方にとって高等学校教育がアーミッシュの基本的な教義と慣習に反する。」と訴えたのです。アーミッシュ共同体外での高等学校段階での就学義務によって、子ども達を「人間の成長にとって極めて重要な意味をもつ青年期に、物理的、情緒的にアーミッシュの共同体から連れ去ってしまう」と主張します。

一審はグリーン・カウンティ裁判所で開かれ、原告の敗訴となり５ドルの罰金が科せられます。二審の州最高裁では、一転してヨーダ-側の勝訴となります。それを不服としてウィスコンシン州教育委員会は、連邦最高裁判所に上告します。保護者には子どもに高等教育を受けさせる義務があるという主張です。ウィスコンシン州側の義務教育法の適用免除要求の拒否に対して、1972年５月15日に、連邦最高裁のバーガー首席判事は、アーミッシュはその共同体における生活のために、十分に適切な教育を子ども達に与えていると判断し、州の主張はアーミッシュの家族と子どもの宗教的権利を侵害するという判決を下します。

さらに、学校では人間に必要なものの半分しか得ることができないとし、アーミッシュは学校教育に全て委ねるのではなく、家庭や農場での実践を通して、良き市民を育ててきた長い実績があることを評価したのです。この判事は共同体では低い犯罪率や社会保障給付の辞退を論拠として、アーミッシュは稀なほど子どもの教育に成功しているとも述べます。

この最高裁判決において、少数の反対意見をダグラスという判事が述べています。憲法の修正第１条の言論や表現、結社、宗教の自由、さらに修正第 14 条にある市民の広範な権利は保障されるべきであること、しかし、共同体における８年の教育で十分であるという主張は、果たして子どもの幸福を保障するものかは疑問であるとします。保護者の訴えは子どもの訴えではないという主張です。子どもの意見を聞くべきであるというのです。

ここで私どもが誤解していけないことは、アーミッシュはキリスト教のカルト集団とか禁欲的な集団ではないということです。良き農業者となることを喜びとする穏やかな市民であることです。教育が学校教育に偏っているアメリカ社会において、家庭やコミュニティの役割や重要性を喚起した画期的な事例がこの裁判と判決だったといえます。多民族国家を代表するような人々がアーミッシュといえましょう。

（2022 年 7 月 31 日）